

2022 年度 個人研究実績・成果報告書

2023 年 4 月 23 日

所属	商経学部	職名	准教授	氏名	安藤 崇
研究課題	環境目標斉合性の向上に資する企業行動の研究				
研究キーワード	環境目標斉合性、環境マネジメント・コントロール	当年度計画に対する達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた		
関連するSDGs項目	1. 貧困をなくそう	3. すべての人に健康と福祉を	14. 海の豊かさを守ろう	15. 陸の豊かさを守ろう	
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>環境マネジメント・コントロールやそのシステムについて継続的に研究活動を行った。特に今年度はそれらの究極的なねらいである「環境目標斉合性」概念についてさらなる論究を展開した。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>【論文（査読あり）】</p> <p>なし。</p> <p>【著書・論文（査読なし）】（*すべて単著）</p> <p>（著書）</p> <p>2023/03 『ケースブック SDGs 経営：企業構成員を動機づける仕組み』（総 208 頁）（同文館出版）。</p> <p>（論文）</p> <p>2023/03 「企業の環境戦略の実現に向けた予算実践：日産自動車を事例として」『千葉商大論叢』第 60 巻第 3 号（69-84 頁）。</p> <p>2022/07 「環境目標斉合性の実現に向けた企業システム：ソニーグループの SDGs への取り組みを事例として」『千葉商大論叢』第 60 巻第 1 号（53-72 頁）。</p> <p>【学会発表等】（*すべて単独）</p> <p>（海外）</p> <p>2022/09 Investigating the concept of “Goal Congruence” suited for the Modern Corporate Environment: Expansion and Enhancement in the Environment, Time, and Organizational Structure axes- Management Control Association Symposium 2022,15-16 September. at EADA, Barcelona, Spain.</p> <p>（国内）</p> <p>2022/08 環境目標斉合性の実現に向けた企業システム：ソニーの SDGs への取り組みを事例として 日本管理会計学会 2022 年度年次全国大会（明治大学）。</p> <p>3. 主な経費</p> <p>論文の英語翻訳や投稿支援サービス料等</p> <p>4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）</p> <p>特になし。</p>					
（本文は <u>2 ページ以内</u> にまとめること）					